

派遣留学報告書（1月分）

金沢工業大学 情報工学科

畑山 真治

1月2日、年末休み中施錠されていた寮が開き、その日の内に学生がほぼ全員戻ります。そして翌日の3日から中断されていた冬学期が再び始まりました。

さすがにここは雪がたくさん降ります。降り積もった後は歩けそうもないように見えるのですが、早朝に除雪車が徹底的に学内の歩道を除雪してしまうので朝一番の授業に向かうころには構内の道路はすっかりきれいになっていてスニーカーでも歩けます。私は特にブーツなどを買わなかったのですが、これなら何とかかなりそうです。

中間試験を受けたので、それについて報告します。

Internetworking & lab はマークシートを使う多肢選択式の試験を講義形式の授業の時間に行い、それとは別に Lab Experiment という実技形式の試験も行われました。これはラボの授業で行ったことに関する問題が出され、その場に用意されている工具や材料、パソコンなどを使ってその問題の条件を満たし、教員に見せてサインをもらうものです。この科目ではこのどちらの試験でもそれぞれ両面一枚、片面一枚のノートの持ち込みが認められています。認められているというより持ってくることは義務のようで、持ってこないと10点引かれてしまいます。試験では最初の問題のケーブル作りはかなり時間を取られてしまって途中で時間切れになってしまいました。しかし時間切れになった後、残りの問題について自分の考えを口頭で伝えるとそれが正しい場合半分の点数がもらえました。

Principal Economics で受けた試験は特に変わったところのない普通の試験でした。数枚の問題用紙・解答用紙が一緒になったものがホッチキスで留められていて、試験の最初に配られて開始です。多肢選択やT/F形式ではなく、短い答えを書かせる物とエッセイが主でした。この試験は全体的に出来ませんでした。特にエッセイが全くだめでした。英語での授業で、自分が日本で取ったことのない経済について理解するのはやはりむずかしいです。私に十分な英語力か、十分な経済の科目の知識があれば、まだよかったのかもしれませんが。なぜなら十分な英語力があればこの授業を受けているほかの学生と同じでこの授業を通して経済について理解していくことが出来るだろうし、日本で関連する授業を受けているなど経済の知識があらかじめあれば、ちょうど私が取っているもう一つのアカデミックの科目である Internetworking & lab と同じで英語での授業の部分で多少分からなくてもある程度推測などで何とかかなると思うからです。特にコンピュータの分野は、アメリカで発展したこともあって日本での授業でもカタカナ英語の専門用語がたくさん入り込んでいます。しかし、この授業を取ったおかげでそのことに気づかされたことは結果的によかったですと思います。つまり Internetworking & lab の授業で何となく理解できるのは自分の英語がその授業を取るのに十分ということではなく、下敷きの知識があるからだということです。英語での授業を受けるのに十分な英語力と、今自分が持っている英語力との差はやはり大きいので、日本に帰っても英語の勉強をがんばろうと思います。

1月後半こちらで大雪が降りました。この大雪のおかげで22日に予定されていた Ski trip が翌週に延期されてしまいました。Bristol Mountain は RIT から車で1時間もかからないところにあります。この Ski trip のほかにも何回か私の部屋の向かいに住んでいる韓国人の友達に連れて行ってもらいました。

またこの月 E L C に、留学生へアメリカについての質問をするために近くの中ドルスクールから生徒がやってきました。各生徒に E L C の生徒一人がついてペアになり、質問に答えました。私も自分のペアの男の子の質問に答えました。自分の国とアメリカで違っていておどろいたことは何かなどの質問がされました。とっさに思いつかなくて蛇口の閉める方向と開ける方向が逆だとか湯船につかれないなど小さな事ばかり言ってしまいましたが、何が違うかというとはやはりアメリカ人はフレンドリーというか沈黙を嫌うんだなとよく思います。スキー場でもリフトに乗ると2回に1回は話しかけられます。前学期の E L C での授業でも、知らない人同士のスモールトークについてよく説明されました。